

観光ボランティアガイドで
歩いた横須賀あれこれ

2014-3-27

金塚

1. ペリー記念碑について
2度あわてて建てられた記念碑
日露戦争を目前であわてて建てられ、戦後あわてて再建された
2. 横須賀にある認定された建造物
 - (1) 観音崎のコンクリート製水槽
通産省認定の一番古いレンガ建造物
 - (2) 追浜の第3海堡遺構
 - (3) ヨゼフ病院の建物
DOCOMOMOが近代建造物として認定された
3. 三笠艦と搭載の機器類
近代寸前の機器が搭載されている
4. 日本で一番古いドック
今も現役
5. 横須賀のトンネル
横須賀駅周辺の道路と鉄道のトンネル
6. 会津藩士の墓から見る幕末
横須賀市と三浦市に残る会津藩士の墓
7. 戦後の企業誘致とその後
 - (1) 第2次大戦後に努力した企業誘致、中には原子力研究所も
 - (2) ベースについて
8. 開国の街・浦賀について
幕末だけではなかった
9. 昔の東海道 走水
日本武尊の東征の道

観光ボランティアガイドで 歩いた横須賀あれこれ

1. ペリー記念碑

- 1853年7月 ペリー艦隊来日 プリマス号にピアズリー少尉候補生乗艦
- 1898年12月 米友協会発足 在米旧友親睦会と遊米人会が合同
- 1900年10月 ピアズリー退役米海軍少将来日
- 1900年11月 金子健太郎の司法大臣兼ピアズリー歓迎会で遺憾の発言

日本海軍主力艦の発電設備

〇戦艦と巡洋戦艦(装甲巡洋艦)の要目

竣工	建造所	排水量	同型艦	発電設備	略歴
明治8年(1875年)	サミュエル造船所(英国)	3,777t		なし	日清戦争向け建造の装甲艦
1885年(明治18年)	フルカン社(仏国)	7,220t		3台 70Kw	旧清国の主力艦、日清戦争で捕獲
明治30年(1897年)	テームズ社(英国)	12,533t	八島	96Kw/80VDC, 32Kwx3台	後練習艦となり横須賀に、戦後解体
明治33年(1900年)	テームズ社(英国)	14,850t	朝日、初瀬	144Kw/80VDC、48Kwx3台	後練習艦となり佐世保に、戦後解体
明治35年(1902年)	ビッカーズ・ハロインファーンズ	15,140t		160Kw/80VDC、48X3,16x1	記念艦として横須賀に
明治39年(1906年)	同上	15,590t	鹿島	330Kw/110VDC、66x5	T12除籍、T14解体、鹿島解体はT13
明治40年(1907年)	呉工廠	13,750t	生駒	不明	T6横須賀で火薬庫爆発着底、解体
明治44年(1911年)	横須賀(呉)工廠	14,636t	伊吹	704Kw/110VDC、88Kw x8台	T12除籍、T14解体、伊吹解体T13
明治43年(1910年)	横須賀工廠	19,372t	安芸(準)	同上	T12除籍、T13主砲の実艦的で撃沈
明治44年(1911年)	横須賀工廠	20,800t	摂津	880Kw/110VDC、88x2,176x4	T7除籍、摂津は標的艦にS20爆撃で着底
大正2年(1913年)	ビッカーズ・ハロインファーンズ	27,500t	比叡、他2	1100Kw/225VDC、200X4,100X3	
	大改造			1600Kw/225Vdc、250x4,200x3	
大正4年(1915年)	呉工廠	30,600t	山城	800Kw/225Vdc、200 x 4	
	大改造			1350Kw/225VDC、250x3,200x3	
大正6年(1917年)	神戸川崎造船所	31,260t	日向	950Kw/225VDC、250x2,150x3	
	大改造後			1300Kw/225VDC、250x4,300x1	
大正9年(1920年)	呉工廠	33,800t	陸奥	1025Kw/225VDC、250x4,25x1	
				1250Kw/225VDC、250v5	
昭和17年(1942年)	三菱長崎造船所	68,200t	武蔵	4800Kw/225VDCV、600x8	

電源の交流化については、昭和12年に朝潮及び陽炎型駆逐艦を220VACとし、次いで、工作艦明石と香取・鹿島の練習巡洋艦を440VACで建造した。

その後、戦艦まで交流化を検討中であった。ただし、通信用電源としては直流発電機に交流発電機を直結する方法で交流電源を得ていた。

この時、50V/50Hz、60V/60Hz、を三相110Vで発電し、55Vに降圧したが、単相110V、(巡洋艦鈴谷級は単相230Vとした)

	6号	備考
	1935年7月 (昭和10年)	
4年10月 E13年)	1940年5月 (昭和15年)	
	320	330
	48	62
	15	18
	157,000	241,000
n延長		
	312.19	310
	34.858	40
	10.967	11

た

潜水艦」、

濃」

つた

明治時代に作られた日本のドライドック
 (横須賀市教育委員会発行 横須賀市文化財報告書 第17号より)

No.	現状	名称	所在地	起工	竣工	構造	全長	渠口幅	渠口深さ	設計	監督	増改築	備考
1	○	横須賀ベース1号	横須賀市	1867.4	1871.2	石造	122.5	25	8.4	Florent		1935~6	
2	○	横須賀ベース3号	横須賀市	1871.6	1874.1	石造	94	13.8	6.9	Florent			
3	●	工部省長崎1号	長崎市	1874.3	1879.5	石造	129.1			Florent		1894~5	
4	●	大阪鉄工所	大阪市		1883.5	木造				Codor		1888石造に	
5	○	横須賀ベース2号	横須賀市	1880.7	1884.6	石造	156.5	28.78	10.25	Jouet	恒川柳作		
4	●	大阪鉄工所1号	大阪市		1888.5	石造	75.75	11.3					1916.3廃止
6	●	呉鎮守府1号	呉市	1889.4	1891.3	石(花崗岩)	131.4	23.4	10.8	山崎鉦次郎	恒川柳作		1971.7廃止
7	○	佐世保重工5号	佐世保市	1893.3	1895.8	石造	174.4	30.3	11.8	石黒五十二	恒川柳作	1901.8コンクリート改築	
8	●	三菱長崎2号	長崎市	1895	1896.11	石造	112.4	20.0	7.5				
9	△	三菱重工横浜2号	横浜市	1895.1	1896.12	石造	128	18.5	8.3	恒川柳作			
10	●	呉海軍工廠2号	呉市	1894.6	1898.12	石造	158.4	37.8		遠邑容吉	遠邑容吉		1971.7廃止
11	△	住重浦賀・川間	横須賀市	1896.2	1898.11	煉瓦造	136.7	16.4	9.7	大倉条馬	恒川柳作		恒川→山崎
12	△	三菱重工横浜1号	横浜市	1896.7	1898.12	石造	167.8	28.5	9.2	恒川柳作			
13	○	住重浦賀・浦賀	横須賀市	1898	1899.11	煉瓦造	148.4	19.7	8.4	杉浦栄次郎			
14	○	日造舞鶴2号	舞鶴市	1899.11	1904.7	石+コンクリート	206.7	26	12.1	石黒五十二	恒川柳作		旧舞鶴工廠
	●	佐世保工廠水雷艇	佐世保市		1902.5	コンクリート				吉村長作	真島健三郎		
15	○	川重神戸1号	神戸市	1899.11	1902.11	石(御影石)	160	22	8.33	山崎鉦次郎			1959拡張
16	○	函館ドック	函館市	1898.6	1902.11	石造	161.8	24.8	9.3	遠邑容吉			1900工事中断
		舞鶴工廠水雷艇	舞鶴市	1901.1	1903.2	石造				石黒五十二	恒川柳作		
17		備後船渠1号	因島	1900.2	1903.11		124.2	25.7	7.2				1957拡張
18	○	三菱長崎3号	長崎市	1902.12	1905.3	石造	222.1	30.3	10.4				1957拡張(コンクリ)
19	●	大阪鉄工所天保山	大阪市		1905	木造	86.66	13.33					旧大阪市営
20	●	大阪鉄工所天保山	大阪市		1905	木造	57.27	12.73					1922埋め立て
21	●	住幸船渠	因島		1904頃	石造	85.45	13.38	7.03				大戦中埋立

明治時代に作られた日本のドライドック
 (横須賀市教育委員会発行 横須賀市文化財報告書 第17号より)

No.	現状	名称	所在地	起工	竣工	構造	全長	渠口幅	渠口深さ	設計	監督	増改築	備考
22	●	因島船渠1号	因島		1905頃								
23		因島船渠2号	因島		1905頃								
24	○	佐世保重工6号	佐世保市	1901.1	1905.6	石+コンクリート	176.9	28.58	16.2	石黒五十二	吉村長作		
25	○	横須賀ベース4号	横須賀市	1901.11	1906.1					石黒五十二	井上親雄		
26		備後船渠2号	因島	1909.10	1907.1	石造	89.1	20	5.5				
27	●	横浜船渠3号	横浜市	1907.3	1910.10	コンクリート	153.3	19.4	7.9	恒川柳作			1910.10開渠
28	●	播磨船渠	相生	1906.12	1912.1	石造	132.3	17.6	8.08				
22		大阪鉄工所因島	因島	1911.11	1912.3	石造	142.5	18.36	7.77				No.21を改修
	●	呉海軍工廠	呉市	1907.11	1912.3	コンクリ+石					中野清次		戦後埋立
29	○	IHI呉3号	呉	1908.1	1912.3	コンクリ+石					中野清次		戦後拡張

注記: ○印は現存使用中、 ●印取り壊し、 △印は現存するが使用停止 (ただし、昭和63年現在)

東京湾要塞の砲台一覧表

2013年7月29日 文責 金塚

砲台	起工	竣工	備砲 (要塞建設期)	備砲 (要塞整理期)(T12以降)	備考	所在地
夏島	M21-8	M22-11	24Mx10		T2に廃止	横須賀市追浜
笹山	M21-8	M22-8	24K x 4 ⑨		T2に廃止	横須賀市長浦湾北岸
			M37~T4 臨時砲台(7野)X4			
箱崎低	M22-6	M23-6	24Kx4		T2に廃止	箱崎半島先端
箱崎高	M21-9	M22-9	28hx8		T2に廃止	箱崎半島先端
波島	M22-7	M23-7	24Kx2(観音崎第4より移設)		T2に廃止	横須賀港南岸、波島岬
米ヶ浜	M23-4	M24-10	24Kx2, 28Hx6	S2-7より28H x 4(演習砲台)	T2に廃止、後演習砲台で再開	横須賀市深田台(現中央公園)
観音崎第一	M13-6	M17-6	24K x 2 ⑨		T2に廃止	
観音崎第二	M13-5	M17-6	24K x 6 ⑩		T14に廃止	
観音崎第三	M15-8	M17-6	28Hx4		T14に廃止	
観音崎第四	M19-11	M20-5	24Mx4 → 15K x 4 ⑥			
観音崎南門	M25-11	M26-8	9K x 4 ④, 12K x 4 ④		最後に残った、9Kは走水低に移設	
猿島	M14-11	M17-6	24K x 4 ⑨, 27K x 2 ⑪		T14に廃止、海軍に保管転換、海軍は終戦まで保管	
富津元洲	M15-1	M17-6	12Kx4, 28Hx6		T4除籍、以降大砲試射場	
走水低	M18-4	M19-4	27K x 4 ⑬	9K x 4 (重砲兵学校の練習用)	S9に廃止、練習用9kは残存	
走水高	M25-11	M27-2	27K x 4 ⑫		S9に廃止	
小原台	M25-12	M27-9	12Kx6, 15Mx4		T2に廃止	
花立台	M25-10	M27-12	12K x 4 ⑤, 28Hx8, 15Mx4		T14-7廃止	
	S12-10	S13-3		15K x 2 ⑰	再開後終戦まで残された	
三軒家	M27-12	M29-12	12K x 2 ③, 27K x 4 ⑫		S9に廃止	
大浦	M28-5	M29-7	9K x 2 ①		T14に廃止	
腰越	M28-5	M29-3	9K x 2 ①		T14に廃止	
千代ヶ崎	M25-12	M28-2	12K x 4 ⑤, 28Hx6, 15Mx4			
	T13-10	T14-6		30K(砲塔)x2	戦艦「鹿島」前部砲塔を移設	終戦まで残存
第一海堡	M14-8	M23-12	12K x 4 ②, 28Hx14		終戦時15K x 2 残存	
	T13-10	S3-11		28Hx4, 15K x 4 ⑧, 12Kx4		
第二海堡	M25-8	T3-6		27K x 6 ⑭, 15Kx8 ⑥⑦	震災後第1海堡と剣崎に移設	
第三海堡	M25-8	T10-3		15Kx4, 10K x 8 ⑮	T14に廃止	遺構が追浜に保存されている
走水第二	T12-12	T13-3		10K x 4 ⑮	S17房州洲崎砲台に移設	
千駄ヶ崎	T12-12	T13-3		10K x 4 ⑮	S20房州鴨川に移送	
西浦	T6-12	T9-8		30Hx4	T14に廃止	
三崎	T7-12	T10-8		30Hx4	S18除籍	
剣崎	T13-10	S2-6		15K(砲塔) x 4 ⑦	第2海堡より移設、	
城ヶ島	T13-10	S4-3		25K(砲塔) x 4 9K 4	戦艦「安芸」の砲塔を移設	
金谷	T12-12	T13-3		15K x 4 ⑮	終戦時10K x 4	
大房岬	S3-1	S7-10		20K(砲塔) x 4	巡洋艦「鞍馬」の砲塔を移設	千葉県
州崎第一	S3-9	S7-10		30K(砲塔) x 2	戦艦「生駒」前部砲塔を移設	千葉県
州崎第二	T13-10	S2-3		30Hx4		

東京湾要塞の砲台一覧表

- 注記 1.
1. K は加農砲、H は榴弾砲、M は臼砲、
 2. ①は 大阪砲兵工廠で試製、製作した9糎加農砲で、最大射程 6,300m
 3. ②は フランスのシュナイダー・カネー社から購入した、斯加式12糎速射加農砲で、最大射程6,250m
 4. ③は フランスのマキシム社製の 馬式12糎速射加農砲で、最大射程 7,450m
 5. ④は、大阪砲兵工廠製の 鋼製9糎及び12糎速射加農砲で、海岸での発錆を予防のため青銅砲身を採用、最大射程は 9糎が5,600m、12糎が6,650m
 6. ⑤は 大阪砲兵工廠で試作したイタリア式12糎加農砲(砲身は青銅製)で、明治34年に正式採用された 最大射程 7,000m
 7. ⑥は ドイツのクルップ社製の 克式三十五口径15糎速射加農砲
 8. ⑦は フランスのサンシャモン製の砲塔式(2門入り) 15糎加農砲で、第二海堡に設置されたが震災後剣崎に移設
 9. ⑧は ⑦と同一仕様でドイツのクルップ社に発注され、震災後第二海堡から、第一海堡に移設された
 10. ⑨は 政府がイタリーから招いたグローリー少佐の設計を改良して国産した23口径24糎加農砲 最大射程 9,000m
 - ⑩は ⑨の威力を増した26口径24糎加農砲としたもの 最大射程 10,000m
 11. ⑪は、明治21年にフランスの地中海鐵道造船会社から購入した 加式28口径27糎加農砲 最大射程 11,250m
 - ⑫は 明治26年に⑪の会社から購入した 加式鋼製28口径27糎加農砲 最大射程13,000m
 12. ⑬は 明治32年に フランスのシュナイダー社から購入した 斯加式36口径27糎加農砲 最大射程16,100m
 13. ⑭は 明治36年に購入したシュナイダー社の斯加式40口径隠頭砲架27糎加農砲四門(最大射程14,000m) クルップ社製 克式45口径砲塔27糎加農一基(2門入り)(最大射程16,000m)が設置されている
 14. ⑮は 大正7年に採用された第3海堡向け七年式十糎加農 後に走水第二と千駄崎に使われた
 15. ⑯ 大正7年に制式採用された 七年式十五糎加農砲 最大射程 20,200m
 16. ⑰ 昭和11年に制式採用された96糎十五加農砲 最大射程 26,200m
 17. 参考図書(2)によると、剣崎砲台の参式砲台は太平洋戦争勃発の日に、海軍の水中聴音機の協力で敵の潜水艦らしいものに射撃した一方、参考図書(3)によると、昭和16年9月の動員で、重砲兵連隊第1大隊の第1中隊が城ヶ島砲台、第2中隊が剣崎砲台、第3中隊が千駄ヶ崎砲台で守備につき、10月28日に剣崎と城ヶ島砲台が試射、29日に千駄ヶ崎砲台が試射、と記載されている

- 注記 2. 三浦半島城郭史 より三浦半島の砲台 建設年表
- 明治13年 観音崎北門第1、第2 砲台 起工、明治14年 第1海堡、猿島砲台 起工
- 明治15年 観音崎第3砲台、元州(千葉県)砲台起工
- 明治17年 第1海堡以外の砲台が相次いで竣工した
- 明治19年 観音崎第4砲台起工、翌20年竣工
- 明治21年 夏島砲台、笹山砲台、箱崎高砲台起工
- 明治22年 上記の3砲台が竣工、波島砲台、箱崎低砲台起工
- 明治23年 上記の2砲台と第1海堡 竣工、米が浜砲台起工(翌24年竣工)
- 明治25年 観音崎南門第2砲台、小原台保壘砲台、花立台保壘砲台、走水高砲台、千代ヶ崎砲台 起工
- 明治26年 観音崎南門第2砲台 竣工
- 明治27年 花立台保壘砲台、小原台保壘砲台、走水高砲台 竣工。三軒家砲台起工
- 明治28年 千代ヶ崎砲台竣工、大浦砲台、腰越砲台 起工
- 明治29年 大浦砲台、腰越砲台、三軒家砲台 竣工
- 大正2年 米が浜、波島、夏島、笹山、箱崎、小原台、大浦、腰越、観音崎北門第1、元洲(千葉県) の各砲台に対し、廃止通達が出され、備砲が撤去され、除籍された
- 大正4~6年 第2、第3 海堡が完成した様子、この頃に三崎砲台と西浦砲台も竣工
- 大正12年の関東大震災の結果、猿島、米が浜、花立台、第3海堡、観音崎旧第3、北門第3、北門第2、南門第3、西浦の各砲台が廃止、除籍となる